

# 取香 遺産

Vol.79

## 「ひげなで祭」 側高神社に伝わる奇祭



▲側高神社の奇祭「ひげなで祭」

側高神社は、大倉に鎮座する古社で、香取神宮第一の摂社です。その主祭神は、神秘とされ明かされていません。創建は神武天皇18年と社伝にはあります。

側高神社には「ひげなで祭」という奇祭が伝わっています。以前は1月10日に行っていたましたが、近年は1月の第2日曜日を祭日としています。

祭りは、氏子による年番の引き継ぎ行事であるとともに、五穀豊穡と子孫繁栄を祈願する神事でもあります。

その始まりは、鎌倉時代の建保2年(1214)と伝えられ、約800年の歴史があります。

祭りは、松竹梅と鶴亀を配し蓬萊山に見立てた飾りの前で行われます。西側に年番、東側に請年番が向かい合って座ります。全員が紋付き袴の正装で、年番のみが髭を付けています。まず、7組に分かれて7杯に達するまでお酒を飲み合う「七引き合いの杯事」から始まります。その後、年

番は請年番に酒を勧めるため立派な髭を撫でます。これが「もつと飲め」の合図で、請年番は杯を断れないしきたりになっています。このように飲み比べが始まると、周囲から「まだまだ」とのやじが飛び大いに盛り上がります。「ひげなで祭」の名はこのような所作に由来しています。年番と請年番の前には、飲み干した杯数を表す竹串が立てられます。竹串には、小鮒や鮭の切り身が刺してあり、家内安全や無病息災の御利益がある縁起物とされています。やがて、神職の発声で鬨の声を上げ、祭りは終わります。

「ひげなで祭」は、関東地方東部で年頭に行う御歩射と呼ばれる徒弓神事が独特な形に発展した貴重な伝統文化です。昭和52年6月1日に市の無形民俗文化財に指定されました。

平成25年は1月13日(日)13時30分ころから執り行われます。問い合わせ

生涯学習課

☎(50)1224